

1. 研究課題名：「中国・青海省に蔓延する人獣共通寄生虫・エキノコックス3種とウシバエ類の疫学の解明と対策法の確立」

2. 研究代表者名：

2-1. 日本側研究代表者：野中 成晃（宮崎大学 農学部 准教授）

2-2. 日本側研究代表者：李 偉（青海大学畜牧獣医科学院 教授）

3. 総合評価：(S)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

青海省におけるヤク体内でのウシバエの体内移行経路を初めて解明し、本成果をもとに青海省のウシバエ対策ガイドラインを作成した(中国側成果)。

チベットスナギツネが生息する中国北西部の高標高地域は、地政学的に外国人が自由に入出入りして調査することが困難な地域であるが、中国側の全面的な協力のためスムーズな調査を行うことができた(日本国側成果)。

両国の成果として、消化管内寄生虫感染の新規の高感度診断法を開発した。これにより理論と実際の相異について多くを学ぶことができた。相手国側研究チームとの連名で、9 件の国際および国内学会発表を実施しており、研究成果を積極的に発表できた。両国の協業による本事業の成果を、極めて高く評価する。

計画に従い良く研究展開されたが、GPS 技術を用いた調査に関して認可に 2 年を要したため、十分なデータが得られなかったのが残念であった。両国の成果として、エキノコックス症との明確な結びつきを持つ野生齧歯類の種を明らかにするに至らなかったことから、今後の更なる進展に期待したい。

(2)交流成果の評価について

合同調査の際には、双方から若手の大学院生が参加し、盛んな交流が行われた。本研究交流協力期間中に大学院生が宮崎大学に留学した。中国側から李偉教授を年 2 回招聘し、活発な研究討議が行われた。日本国側および相手国側の双方で、ワークショップ、シンポジウム等の開催が行われ、活発な研究討議が行われた。今後も、中国側から大学院生が宮崎大学へ留学することが予定されている。人的交流活動、並びに人材育成の観点から、高く評価する。今後の後継者の育成にも期待したい。

一定の交流は達成できたが、政治的理由で中国の若手研究者が日本で短期研修ができなかったのは残念である。本来ならば、日本側の研究者が中国に長期滞在して研究・指導できることが望ましい。

3. その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

最終年度に宮崎市でエキノコックス症に関する合同シンポジウムを行い、今後中国側と治療薬開発について研究協力を行っていくことを合意している。また、共同研究の継続を見込み、中国側では新たな研究費申請を行っている。

本研究のメインテーマである疫学や感染対策はデータ収集に時間がかかるが、今後の成果発表に期待したい。GPS を用いた解析で、高精度のデータ解析による疫学研究成果、並びに中国全土の衛生向上に大きく期待する。